



★エプロン通信員1名が卒業し、新しく1名の方が入りました。これからもエプロン通信のご愛読、よろしくお願いいたします！

今年もよろしくお願ひします

エプロン通信員 新里 律子

エプロン通信員を引き受けて、早1年が過ぎようとしています。みんなに知ってもらいたいなあと思ひ書きはじめた原稿も、何回目かまでは、順調な滑り出しでした。回を重ねることに締め切りに終われるようになり、このまま引き受けていいのだろうかと思ひ時期もありました。子どもたちも義務教育を終えて、少しずつ親の手を離れましたが、新たな悩みも増えていきました。現実味を帯びてきた子どもたちの将来のこと、老後のことなど。そんな私の視点で地域や子育て世代の事を伝えていけたらなと思ひています。

エプロン通信員 島袋 ミチ子

エプロン通信員に参加して早くも1年が過ぎました。エプロン会議のときは胸がドキドキで頭の中は真っ白です。もっと勉強しなければと思ひます。2年目でも市民の皆様には、読んでもらえるように書いていきたいと思ひています。ごほうび宜しくお願い致します。

エプロン通信員 備瀬 真理

東日本大震災から約10日後、阪神大震災の年に生まれた子供が選抜高校野球の選手宣誓を行いました。「本当は現地でボランティアをしたい。」という言葉が心強かった。被災者の方々には私は頑張りたいと思ひます。

エプロン通信員2年目を迎える今、いよいよ1年目のご市報として、何が出来るか考えたいと思ひました。

通信員を卒業します

エプロン通信員 末吉 郁子

友人の後任で始まった私のエプロン通信です。当初、趣旨をよく把握して、好き勝手な題材と表現で担当さんたちを困らせてしまつて事件が多発。それでも皆さん私の意見を尊重しつつ、適切な言葉を生懸命探してくれました。書くことで皆さんの気づきがありました。3年は続けよう、と思ひました。3年たちました。大好きな宜野湾にこんな形で関わられたこと、ここで出会った人たち、読んでくれた人たちに、ありがとうございます。

新エプロン通信員です

エプロン通信員 津原 涼子

日頃大変お世話になっている方より、エプロン通信員になりませんか？とお声をかけていただき、縁あって今回より担当させていただきますことになりました。

宜野湾市で育つて早10年。本当に多くの方々を支えられ、成長し家族を持つことができました。この機会に恩返しが出来たら、とても嬉しく思ひ感謝しております。

読んでくださった皆さんへ楽しい話題をお届けできるように頑張ります。ごほうびしくお願ひ致します。



茶 ぐわいゆんだく 84

歴史の道 野嵩の石畳道

野嵩三丁目にある石畳道は、近世首里王府時代（約四〇〇年〜一三〇年前）、宜野湾番所から中城番所までを結ぶ宿道でした。

宿道とは、首里王府と各間切（現在の市町村）を結んだ道のことです。この宿道を使用して王府の文書を各間切に伝達しました。

野嵩の石畳道は、当時の主要街道、中頭方東海道の支道である宜野湾街道とそれから分岐する勝連・具志川間切や中城間切の宿道とを結ぶ重要な場所であったようです。

ほかに宜野湾を通る道でこれまでにわかっている宿道は、首里城より浦添番所→宇地泊→大謝名→大山→佐阿天橋（北前）→北谷番所を結ぶ道（中頭方西海道）と、首里城より浦添番所→当山の石畳→嘉数→宜野湾街道→普天満宮を結ぶ道などがあります。

野嵩の石畳道は野嵩一区から普天満川に架かる我謝橋までの約一・二〇kmの急な坂道で、今でもほぼすべて残っており、県道二九号線の東側約六〇mの石畳道は市指定史跡として保存され、美しい石畳

の姿を見る事ができます。

また、この石畳の坂道は、護佐丸・阿麻和利の乱の際に、逃げる護佐丸の妻子が追手に捕まりそうになりましたが、袖をちぎられただけで難を逃れた、という伝説があり、「スディバナピラ」（袖離れ坂）とも呼ばれています。

車で出掛ける事の多い現代の私達、琉球の歴史に思いを馳せ、時には歴史に残る石畳道を歩いてみてはいかがでしょうか。



▶野嵩の石畳道 (平成元年3月31日 市指定史跡)

「宜野湾市史」への問い合わせ
教育委員会文化課
☎八九三―四四三〇